

鮎川潤教授退任記念論集によせて

法政学会会長・法学部長 前 田 雅 子

2020年3月末日をもって、私たちの敬愛する鮎川潤先生が定年により本学をご退職されました。先生のご在任中のご活躍と本学に対する多大なご貢献に感謝し、ここに「法と政治」の本号をご退任の記念論集として編纂し、先生に献呈させていただくことにいたしました。

鮎川潤先生は、東京大学文学部社会学科をご卒業後、大阪大学大学院人間科学研究科に進学され、その後、金城学院大学教授を経て、2004年に本学法学部教授に就任されました。

鮎川先生は、本学法学部において刑事政策の授業を担当されました。少年非行・少年犯罪を取り上げたご講義では、多くの履修生が熱心に聴講していました。先生の薫陶を受けて、この分野の研究者や専門職に進んだ学生も少なくありません。

鮎川先生のご研究は、社会学における社会構築主義〔social constructionism〕の観点から、少年非行・少年犯罪を柱として、犯罪学、刑事政策学を発展させてこられたところに、その神髄があるとお見受けします。

その成果として、『少年非行の社会学』を始め、多数のご著書やご論文が上梓されています。また、国際研究・比較研究にも対象を広げられ、そのご研究は、英語で著された “Juvenile Crimes and Social Problems in Japan: A Social Constructionist Approach” に集大成されています。

さらに、ご研究のもう一つの柱である犯罪被害者支援に関して、少年犯

罪の被害者家族に対する聴き取り調査を踏まえた研究に従事され、『再検証 犯罪被害者とその支援 私たちはもう泣かない』というご著書等で、その成果を拝見することができます。

鮎川先生は、日本犯罪社会学会や日本社会病理学会など数多くの学会に所属されるとともに、学会理事を務められ、また、家事調停委員や保護司に就任されるなど、学術研究においても、実践の現場においても、多大な貢献を果たされてきました。

本学では、人権教育研究室評議会委員、キリスト教主義教育委員会委員等を歴任され、とりわけ人権教育およびキリスト教主義教育に尽力されました。

何より、鮎川先生の穏やかなお人柄、きめ細かなお心遣いから、私たちは多くのことを学んできました。

鮎川先生の本学における多大なるご貢献・ご尽力に対して、あらためて感謝申し上げるとともに、ご退職後も、先生の末永きご健勝とさらなるご活躍を心より祈念いたします。